中後　雅喜（駒澤大学／4年）

7 CHUGO MASAKI

世界との遭遇のなかで

今大会、ケガのため思うようにプレー出来なかった中後。しかし、決勝戦では素晴らしいパフォーマンスを見せ見事優勝を決める決勝弾も叩き込んだ。そのなかで彼なりに考えさせられることもあったという。進化し続けるスーパーボランチは大会をこう振り返った

（インタビュー、文・内田浩嗣）

「世界ではちょっとしたズレでやられてしまう」

―得点を決めた瞬間はどうだった（インタビュー）は決勝戦後行われました？

中後　そうですねぇ～、得点はおもいっきり蹴ったら入っちゃったという感じでしたね。入ったときの気持ちですか…、「本当に入ったのかな？」って感じでしたね（笑）。実際、蹴った瞬間に入るとは思ってなったんで（笑）。あく、はいったんだなと。

―後半同じような場面があったけど？

中後　そうなんですよ。あっちのほうが決めたかったですよ。コースもあっちのほうがよかったし。

―今日の前半は？

中後　前半はビックリシュートみたいなのが決まっちゃってでも気持ちを切りかえてCKから同点に出来たんで良かったです。守備の面でもモロッコ戦のほうが全然厳しかったです。

―CKは狙っていたパターン？

中後　いつもニアを狙っているんですけど今日の得点ははじめてといっていいほどあいましたね。

―今大会を振り返ってみると？

中後　正直、優勝できるとは思わなかったんで驚いています。自分もケガをしてしまって信成さん、一成コンビも良かったんで出番はないかもとも思いました。最後の二試合だけでしたけど出れて本当に良かったです。試合が終わった後は「え、本当に!?」みたいな感じでした。実感は全然沸いてこないですね。

―連覇、連覇と騒がれていましたがそのプレッシャーみたいなものは？

中後　連覇というプレッシャーというか本当に自分たちは強いと思ってなかったし、もちろん優勝というものは意識していましたけど一戦一戦本当に頑張ろうという感じだったので…、まさか優勝できるとは思いませんでした。

―個人的な収穫みたいなものは？

中後　個人的な収穫は自分の得意なロングボールもだせたし、守備的にも成長できたかなと思います。

―これでチームは解散してしまいますが？

中後　結果、優勝することも出来たし楽しく出来ました。ただ、チーム全体がこれで終わるのは寂しいと言うかもっとやっていけばもっといいチームが作れたんじゃないかなという印象があります。自分的にはケガしてしまって迷惑をかけてしまった。でもそのなかで20人全員で頑張れたのが良かったと思います。

―これからの課題は？

中後　まだフィジカルも全然弱いし、体力の面でも90分走りきる体力がない。判断のスピードにしても、ボールコントロールにしてもちょっとしたズレでやられてしまうというのがわかったんで、そういうところでボールコントロールだとかポジショニングの速さをしっかりしてやっていけたらなと思いますね。

―雰囲気がユニバ代表は非常に良かったですが特に仲の良かった選手は？

中後　仲の良かった選手ですか…、筑波の兵働とか東学の保坂とか順天の堀健人とよく一緒にいましたね。3年で集まってましたね。

―食事や環境の面ではどうでした？

中後　食事は結構バイキングだったんで大丈夫でした。ただ、最後のほうは結構飽きましたね。

―韓国の料理は？

中後　そうですね大丈夫でしたね。最後のほうはバイキングにも飽きて外に食べに行ったりしてましたけど。

―メンタルトレーニングではいろんな曲を聴いて気持ちを高めていたようですがどんな曲を聴いていたんですか？

中後　いや、CDをもらったんですけどそれに名前が…。まぁ、心の落ち着く曲とか気持ちを高める曲など様々な曲を聴いてました。

―この夏は駒大で関東大学リーグ連覇ですが？

中後　そうですね。帰って北海道合宿に合流してここやっているサッカーは違いますけどそのチームにあったプレーで頑張りたいですね。

PROFILE

●ちゅうご　まさき／1982年5月16日生まれ。177cm、71kg。ジェフ市原ユース出身。好きな選手はジェラード（リヴァプール・イングランド代表）、グラウディオラ（元スペイン代表）。